

# 令和元年度 第2回磐田市総合教育会議 会議録

日 時 : 令和2年2月20日(木) 午後3時30分～午後5時00分

会 場 : 磐田市役所 西庁舎3階 特別会議室

出席者 : 市長、教育長、鈴木好美委員、青島美子委員、秋元富敏委員、杉本憲司委員  
(出席者6名)

事務局 : 企画部長、教育部長、秘書政策課長、教育総務課長、秘書政策課政策・行革推進グループ長、教育総務課総務グループ長、事務局

傍聴者 : なし

## 【会議次第】

1. 開 会

2. 市長あいさつ

3. 協 議 事 項

(1) 令和元年度の振り返りと今後の磐田の教育について

(2) その他

4. 閉 会

---

[協議の主な内容]

(1) 令和元年度の振り返りと今後の磐田の教育について

市長 本年度を振り返っていただき、この会議の感想や、磐田市の全般的な教育のことなど諸々と、屈託のない率直なご意見をいただきたい。

委員 今年度は、教育長から教員の企業研修ということで、4月から半年間、城山中の先生を預らせていただいた。当社の新入社員カリキュラムに則り、ビジネスマナーから入り、会社の施設案内・生産計画・製造工程など、物の流れに沿っていろいろ回ってもらった。

初めは、半年間預かるということで、どのような形で進めようかいろいろと考えたが、教育長や県から「経営的視点の習得」という明確なテーマをいただいたので、先生には我々のような企業が考えている経営戦略とか、分析とか、そういうものを身につけていただくようなカリキュラムをあてることができた。

研修を進めていく中で、我々も気がつかなかった点があり、今後の社員教育に展開できる場所があったので、双方にとっていい出来事であったと思っている。

先日、磐田教育委員会でも申し上げたが、先生が、学校にいない点ということがかなりあると思う。どの先生も、いろいろと外から見るということをやっていたことが、磐田の教育にとっても良いことではないかと感じている。

向陽学府の一体校建設の説明会に出席した。この時までには既に何回か説明会は開かれていると思うが、今回初めて来られたという方もおり、もう解決済のような話を蒸し返すことがある。こうした説明会は、特に若い保護者が出席できるように、平日の夜だけではなく、土日の昼間など、バランスよく出席できるような会であってほしいと思う。

教育委員会を進める政策についても、地元の方に、いかに幅広く説明できるかという点と、そのためには、もっと語る必要があると感じている。

市長 企業への派遣は、教師だけでなく一般の事務も含めて、視野を広めるために必要だと思う。今回は、絶対的に期待値が大きく、どこに出しても恥ずかしくない先生を送っているはずなので、そう簡単には、同じレベルが揃う訳ではないような気がする。市も同様で、そんなに器用な集団ではない。以前に、磐田信用金庫さんへの派遣者を検討したときに、今、この年代でこの役職で、なおかつ、業務も一緒にやれると思われる職員は、2、3人しかいなかった。

委員 この一年を振り返ってみて、私は主に3つの取り組みをしてきた。

1つ目は、とよおか学府が文科省の「道徳教育研究指定校」になり、去年・今年度と2年間の取組が行われている。戦後生まれの私の捉える「道徳」の考え方と、今、教育の現場がどの様に進められているのかを勉強させて貰った。その中で、ご指導下さった文科省や大学の先生方から、「道徳についての基礎・基本」を教えて頂いた気がする。これまで我々が捉えて来た「道徳観」が一変するような学びで、大変驚いた。

真に自分を自分らしく生きると言うこと、子ども達にしっかり「生きていく力」をここに示している学科であるとあらためて学んだ。子ども達は、義務教育9年間の学びの中で、しっかりと道徳的な価値と視点を学び、生き抜く力を体得して大人の社会に出て行く訳だが、こうした学びは子ども達の学びだけであってはいけないと、あらためて強く考えさせられた。子ども達は9ヶ年一生懸命学んだ後、社会に出た時に、この世の中はいつたい何なのか？…と言う事になるのではないかと危惧する。今後は、子ども達をしっかり受け止められる私達大人の「道徳観と学び」が問われてくる。

2つ目は、教育委員の一人として、社会教育や地域交流センターを中心とした学びの場を、しっかり整えて行くことが大切なのではないかと考えている。そういう意味では、「磐田市教育大綱」は、子ども達だけでなく、市民全員の学びに向かう大きな理念と方向性なのではないかと思う。豊岡地区の「交流センターたより:全戸配布」では、これから、みんなで「地域と文化」コミュニティーをどう築いていったら良いのかが写真等で投げ掛けられている。

最後は、「S・P・E・A・K」プロジェクト(※1)についてです。中学生達が、大変活発な会話・議論が出来ていたので、これはすごいことだなと感じた。1月中旬「文科省・教育委員研究会」の際、分科会で「SPEAK」プロジェクトの説明をさせて貰ったところ、みな驚いていた。磐田は、素晴らしい取り組みをしていると改めて思った。さらに、この4月から小学校では、英語が教科として取り組まれる。こうした子ども達が、中学に入り三年生になった時には、この「SPEAK」プロジェクトの本領が発揮されるんじゃないかという姿を見たような気がして、嬉しかった。

## 委員

私は、保護者委員として、子供からすごく感じていることがある。子供たちの会話の中に、LGBT問題が結構話題になっており、それで高校やめてしまった子がいるというのでも聞くことがある。私たちの時代とは違い、そういう子たちを仲間として受け入れていることに、私は驚いている。

保護者の立場で、卒業式とか入学式に出席する際には、なるべくPTAの方に、お話を聞こうと思っている。東部幼稚園に行った際、「民営化についての事について、どう思ってますか？」と聞くと、「教育委員会からそういう事を聞いてくれるとは思わなかった。」といったことを言われ、話をするのは大事だと改めて思った。幼稚園の先生たちも、話をしてくれるので保護者もだいぶ納得はしてきていた。でも、ちょっとしたことを言えるコミュニティがあるといいと感じた。

就学前のコミュニティは、地域の中であつたり、同じ幼稚園であつたり、同じ保育園であつたりして、親同士の交流はすごくあると思うが、小学校に入学すると、今どき名簿もないし、個人情報も全然流れてこないの、一緒に遊んだ子の家や連絡先も分からないということが普通にある。そうすると、親同士の関係は、参観会に来ないと分からず、さらに、参観会後の懇談会に残る方が半分以下となると、小学校の地域の親同士のつながりは、私たち親たちの年代と比べると、すごく薄くなっていると感じている。

先生から「うちの子が、誰かをいじめたようだ。」と電話がかかってきた場合でも、先生の手をわずらわせて、先方の電話番号教えてもらって、電話して、すいませんでし

たつて謝るという感じになってしまっており、心苦しい。

学校は、本当にいろいろな考えの人がいる集団であって、そういう集まりに、無理矢理にでも参加するということが少なくなってきたと感じている。コミュニティを大事にするということにおいても、自分の好きな人たちの集まりだけに所属するのはよくない流れであり、学校の中に、全体で知り合いになれるような関係を作る場があるとよいと感じている。

委員

私は、学府協議会に出席させてもらったが、小学校と中学校の先生方と地域が一緒になって、こういう子に育ててほしいという共通の認識を持ち、皆が一つのものに向かっていくことは非常に大事なことだと感じた。また、この会は、グループに分かれて、真剣にこういう授業づくりをしているといった話し合いがなされており、先生方のすごい勉強の場になっていると感じた。

合併10周年の時に始めていただいた俳句大会は、教育委員会が事務局を受けてくれたことで、その後も続けることができ、とてもありがたいと思っている。小中学校の子供たちの投句数が、一般の投句数の5倍になったことと、子供たちの情操教育になっているという点がうれしい。子供たちは、今、デジタル化されたような頭に育っていくのではないかと不安がすごくあるが、それと正反対な世界が俳句の中にはあり、自然を見て美しいとか、四季折々の風景を感じながら、日本人の心の中に叩き込まれている、そういう美しい言葉の数々をもう一回探し出そうという気持ちが子供たちの中に芽生えてくるということはずごくいいことなので、これからも続けていってほしい。

給食の牛乳については、和食をおいしくいただくという文化が、損なわれていくような気がする。このことについて質問すると、栄養価やカロリー面で牛乳1本つけることで賄うことができるからという回答が返ってくるが、何でもかんでも栄養のあるものごちゃ混ぜにして、ミキサーにかけて、飲ませればよいといったような極論になってしまう。ひとつひとつの味を噛み締めながら、おいしくいただくという意味では、静岡県はお茶所なので、週に何回かお茶でもいいのではないかと常々思っている。

市長

今、教育委員さんから、一年間の感想や指摘があった。

「生き抜く力」については、全ての組織が意識した方がいいと思う。意識する事からしないと行動に移れない。この大事さをつくづく感じている。それを表現として表したのが、大綱であり、道しるべだが、これをどうやって啓発していくか、普及していくか、レベル上げていくかということは、大事なことだと思う。

LGBTについては、私もそう思う。今の子供たちなりの切り口の偏見っていうのはあると思うが、我々が育ってきた時代の偏見とは、ずいぶん是正されて、理解度が深まっていると感じる。ただし、SNSの世界なので誹謗中傷があるのも事実。どのように受け取られるかが全く分からないので、難しい時代になったなと思って聞いていた。いくつかのヒントみたいなのがあれば、また具体的に教えていただければと思う。

俳句だけではないかもしれないが、高度成長の時代に忘れてきた情操・情緒・礼節といったことを、もう少し意識してと言っても、各家庭で差があればしょうがないとなれば、磐田市は、出来る限り学校が何を身につけて卒業して行かせるかということ、真

剣に考える自治体でありたいと思っている。

社会が求めているのは、頭でっかちの理屈をこね回せる若者ではない。現場対応もできて、踏ん張る力もあり、なおかつ知恵も出せるという昔であれば当たり前と思っていることが、全体的に今は少し欠けていると感じている。

今回のコロナの件でも、各省庁が良かれと思ってどんどん発信する。各省庁の中では理屈が合っている、国全体で見ると理屈が合わないといったことが、あちこちで起こっている。私は、コミュニティを維持するために、絶対に必要なツールっていうのが、伝達手段だと思っている。悪用してはいけないことは重々分かっているが、個人情報保護法は、この伝達手段を全部閉ざしてしまったような雰囲気がある。しかし、賛否両論あると無難が一番ということで、悪い意味で何がなんでも全部オールナッシングになってしまっている感があり、非常に心配である。

一方、国では、コミュニティを維持し、コミュニケーション力を上げようと言っている。理念だけを掲げて、あれやれこれやれという方針に非常に危惧している。そういう意味では、学校現場での賛否両論ある事柄に対して、もう少し勇気をもって対処できないものだろうか。先生方が言いにくいことを、かわりに私たちが言うということでもいいと思う。先ほど、給食の牛乳の件も、知事も含めてお茶を飲むようにと言っているが、一方で、もう何十年も牛乳は変わっていない。

以前に、三島市で「週五日米飯」という方針を打ち出した。良いことだから、議会では当然過半数の賛成であった。ところが、特に子供の世界になると、完全に全会一致でないと、事が動かないというところが無い訳ではない。その辺のもどかしさと苦しさは、世代を超えての危惧・指摘でもある。

この教育委員会制度は、戦後、民主主義のやり方を採用して、教育に時の権力が介入しないようにしたことが発端で始まった。ただ、教育委員は、形骸化していて名誉職と言われた時代も長かったが、これからの時代は、今も含めて、そういう時代ではない。ただし、現場を四六時中見ているわけではないので、どうやったら総論として、人材の育成を高めていながら、義務教育の小中学校で何を教え、今まで欠けていたところを補うためには、何が必要で何を是正しなければならないのかといった高い位置からの意見をいただきたいと思う。

教育長

まず、教育委員さんは、本当によく現場や実態を見ていただいたと思った。

それから、研修生を半年間受け入れるというのは、普通の企業ではなかなかできないことだと思う。その中でも、本当に会社ぐるみでプログラムも用意してやっていただいたのは、静岡県で2人だけである。

それから、地域への説明の話があつたが、ながふじ学府は20回以上の説明会をやってきたが、今年最後の方になっても聞いてなかったっていう人が、通学の関係で調整をしている時であった。

スピークプロジェクトについては、ALTも認めており、英語3級程度の実力があるというヨーロッパの評価基準「セパール」を使ってやっている。しかし、私自身も一生懸命宣伝しているが、いかに価値があるものかということが一般化されてないのが残念である。

LGBTについては、校服や校則について、また新たに検討する領域になったといえる。LGBTは、やはり周りの人の理解が必要で、多様な人間を受け入れるだけの自分が必要である。

それから、日本食の原点は何かというと、出汁といえる。飲んだ時に分かる味、ある面では薄い感じのお汁になるが、そういうものを引き継いでやっていけたらと思う。給食の牛乳については、検討できる範囲の中で、お茶の方も勧めていきたいと思っている。

それと、今、問題になっているのは、引きこもりである。きっと僕らが知らない子がいるはずである。私たち大人が「あなたたちを見ていますよ。」という一言メッセージを引きこもりの子供たちに与えてあげれば、僕はきっと磐田市は変わらと思う。

一時期、横ばいだった不登校が、ここへきて増加傾向に転じた。休みを30日カウントすると不登校扱いとしているので、どうしても年度末の1月、2月になると増える傾向にある。静岡県は、全国でもすごい上昇率だが、県の平均より磐田市が多くなる可能性もある。

鈴木委員 今、25日ぐらい休んでいる子が、30日以上休んだことで、不登校とカウントされてしまうのか？

教育長 そのとおりである。不登校と引きこもりについては、磐田市の大きな課題であるし、私たちが絶対、忘れないで見えていかないといけない、大きな問題であるとあらためて思った。

最後に、高度成長の時代に忘れ物をしてきた何か。ただ、頭でっかちで、勉強だけ出来ればいいというものではない。教室に行ったら、子供たちが皆タブレットを見ていたとか、電車の中で若い人たちが下を向いてスマホをずっと見ているということがあると思うが、あれは、ある意味、個別最適化の授業で、経済産業省からは評価される内容である。でも、もっと大事なものがあるのではないか。学校教育の本質とは一体何か。やはり、人間力であり、人間力の育成とそれを重要な課題として、これから掲げていかないといけないと思っている。また、これは、本当に人として大切なもので、教育大綱とも関わっていることではないかとも思う。

市長 これさえすれば良いという解決策はないが、いろいろな方と話をしていると、今の時代に欠けているものは、多くの割合で共通している気がする。個別具体論は、それぞれ微妙な差はあるにしても、今、出張で電車に乗ると、もうほとんどがスマホを見ている。ツール自体は否定しないが、機械とコミュニケーション取った方が楽と思う若者が増えても、当たり前だと思う。塾は、偏差値を上げるために集中してやることだとすれば、公教育は、それ以外の事を教えるべきである。基礎自治体の義務教育は、ものすごく大事で、それを通じて、家庭教育・親教育をどうやっていったらいいのかということに尽きると思う。

壁に当たっている子供らからすると、私のような話でもすごく新鮮に聞こえるような気がしている。子供たちは、知識は豊富なので、誰に相談してもこういう答えが返ってくる

だろうと、ある程度分かっている。でも、想定外の答えが返ってくると、大体、目がすぐ物を言って来る。磐田第一中へ行ったとき、教育長が「出た学校で、成績だけで人生決まらんぞ。」と言ってくれた。「子供が、君らの時代に頑張ることを頑張らなかつたら、社会出てから頑張れんのだぞ。今頑張ることは、勉強なんだ。だけど、勉強が出来たから、幸せな人生が待っているんじゃないぞ。」みたいなことも先生方にはどこかで言ってほしい。親の次に一番身近で頼りになるのは、学校の先生だと思う。

報徳社の改修では、教育委員さんの意見を反映させた。皆がゆとりを、寛容さを無くしている中で、地域や市内全域の有志などで寄り添い、もう一度頑張ろうと思えるようなスタートの施設にしたいと思っている。

一体校については、全10学府の他のエリアも見てもらい、コンセプトや建物以外の基本的な思い、なぜこれを今、磐田市が進めているのかといったことを聞いてほしい。各学府は一長一短あるし、地域柄も課題も土地の形状も違う。だからこそ、10学府が、10学府に合ったような形の一体校を作ろうとしている。

委員 私は、「生き抜く力」というか、たくまさが今の子供たち足りないと思っている。豊岡東小の跡地利用の観点から、自然体験ができるような施設を作っていただきたい。

子供たちは、実は、自然体験や遊びが大好きなのだが、今、体験をする場がないから、やらない、できないだけであって、やらせれば、好きなこともあり、どんどんやっていく子になると思う。

市長 豊岡東小の跡地利用については、方向性は2、3年ぐらい前に一度決めている。火を使う炊事場のある宿泊訓練施設を考えていたが、地元の合意が得られなかったので、少し放置している。何かいいことでも、行政がやろうとすると、反論から来る傾向にある。こちらから頭を下げて、やらせてくださいというものでもない。熟す柿が落ちるように地元の動きを待っている状態である。

委員 生活の中に入って体験するという意味では、敷地には、我々がと忘れかけているようなコミュニティが、まだ少しあると思う。文科省が今、科学的な思考っていうのを求めているが、自分の中に感性と情緒を育てないと想像力が湧いてこない。生活の中から学び取るような施設になればと思っている。

青島委員 自然体験だけではなく、寝泊まりして合宿ができる研修施設が欲しいと思っている。

委員 今ある施設では、観音山牧場と春野山の村の2つだけ。

委員 春野山の村も利用料金が値上がりし、素泊まりでも3000円以上かかる。お風呂も2つあるうちの1つはボイラーが故障して使えないが、毎年利用している。かまどで炊くご飯は非常に美味しく、楽しい。今の子供たちは、まきを割ること、さらにそれを細かくすることはやったことがない。もっと驚くことは、マッチが擦れない。

教育長 中学1年生で、マッチの擦り方を教えている。

委員 うちの子も、アルコールランプ付けるのに必要だからと、家で練習していた。

教育長 中学校3年間で、ガスバーナー使って実験を何回かやることになるが、マッチを擦れないのであれば、絶対にできないことになる。だが、今の若い親は、危ないことをやらせない傾向にある。

委員 春野山の村も観音山もいいが、私はどちらも社会から隔離されていることが気になる。そうではなく、生活の中で自然体験や自分たちの文化・コミュニティが生まれてくるきがする。そういう研修の場であってほしい。

市長 それほど難しい案件ではないので、豊岡全体が地元も含めて理解してもらえればと思う。他にどうですか？

委員 LGBTを大きく解釈していくと、ダイバーシティの問題になる。最終的には、ダイバーシティの基は「個」である。だから、個の尊厳というか、先ほど教育長が言われた「周りを受け入れられる私をしっかり築く」ことは、単に一人の、一個人として、一生懸命勉強して、人として育つだけではなく、人間として育たないといけないということである。ダイバーシティという言葉は、戸籍、年齢、人種、民族、宗教、信条、障害といった表層だけではなく、深層も含んでいる。単に目で気づくことだけではなく、他の人を知った上で、明らかな職性、個性、価値観、教育、仕事など関連を踏まえ、個の尊重、違いをしっかりと認めていくという時代になったと感じる。

委員 自分がしっかりしていないと、相手を認められない。

委員 「磐田の教育」施策の2番目に「個に応じた教育」と書かれている。

市長 この点、子供たちはどう思っているのか、私は見てくれていると思っているのかどうかは、正直分からない。そういう発信もしないし、質問もしない。ただ、自分の家庭環境を我慢するというか、友達にもそういった恥部の部分は言わないという感じを受ける。だからこそ、一人でも多くの出会いや機会を作ってやりたいと思っている。何がヒントになって、何が覚醒するか分からない。

報徳社で頂いたこの施設も、たった一人でもいいから、溺れる者藁をも掴むのような形になればいいと思う。一人の大事さが、全部の大事さにつながっていくと思う。

委員 運営方法について、何か考えているのか？

市長 新しい施設ができると、職員はあれもやりたいこれもやりたいと考える傾向がある。でも、焦ってこれもあれもとやってしまうと、今度は当てにされてしまう。需要は間違いな



くあるので、今年の4月から来年の3月までは、とにかく地味であっても、焦らず最低限で運営したいと考えている。DVや育児放棄、引きこもりで悩んでる親御さんは多い。少人数でもいいから、ここに来て、違った雰囲気、仲間作りをしつつ、「いや実は、僕の家もそうなんだ。」などと集まって懇談してもいい。あえて、キッチンを作ったのも、そこ皆で共同作業しながら、少し愚痴話をしたり、励まし合ったりと地味だけやってみたらどうかと思っている。

引きこもりのご家庭というのは、対外的にみっともないっていう感覚があるので、言わない傾向がある。すると、孤独感にさいなまれ、自分が暗い真っ暗なトンネルの中に入ったまま、出口が分からず右往左往されてる方もいる。大それたことはできないが、いただいた資産を生かす形でスタートしたい。

常時受付を置くわけではなく、相談を受けた職員たちが、ここを使った方がいいと思えば、ここを相談や研修、仲間作りの場として使えばいい。2階の和室はそのままにしてあるので、貸布団借りて泊ることをしても良いと思う。

教育長

今、こども・若者相談センターで、相談されている引きこもりの子やその保護者向けに、まずはそこで、出来る範囲の中で、少し活動をしていきたいと考えている。

市長

子育て支援センターについて、対象の4カ所に行って利用者の方々と話してきた。驚いたことに、ほとんど新聞を取っていない。必要なデータはスマホで取る。新聞紙面のように、見たくない情報や見出しを見ることがない。

そんなに子育てが大変であれば、なぜ親に相談しないのか？という話をしたところ、「そんなこと当たり前だ。」という答えが返ってくるのが分かっているから。だから、それでも慰めてくれる人たちをさまよって探し、利用者の中で波長が合う人たち同士仲良くなっている。

それと、一人が、自宅近くのセンターだけに登録してあると思っていたが、そうではなくいくつも登録してあることも分かった。決算上は、延べ人数で利用者人数が出てくるが、1人で複数個所登録しているのであれば、実際の利用実人数は、もっと少ないということも分かった。

ただ、それを踏まえた上で、一手一手を打っていくことが大事ということも、反省すべきところも分かった。私立保育園の中にある子育て支援センターは、職員も行きにくいということで、行っていない。行っていないから実態が分からない。分からない中で、5年前から指示を受けていたからということで、去年あたりから急にエンジンがかかって、やったら、4カ所同時になってしまったということも分かった。

お母さんたちだけが、極端なことを言ってるわけでもなかった。お互いの反省点がわかったが、ある一定層の方々の意見だけが表に出てきて、意見を言わない人が圧倒的に大勢いることも分かった。だから、今回の意見が、全部子育ての代表意見だとは感じなかった。

委員

子供たちを見ていると、新聞もテレビも、これからいなくなるのではないかと感じている。ユーチューブなどで、本当に自分が見たいところしか見ない。見たくない情報を

全く入れないから全体を知らない。だから、自分がいたいコミュニティにしかいなくても、過ごせてしまうのはどうかと思う。

新聞のように、ペラペラめくっていけば、知らない情報でも、見出しだけとかは入ってくるが、ネットで自分の欲しい情報だけを取りに行く手法は、すごいかたよっていると思う。

今回のように、声を上げるお母さんでも、SNSとかフェイスブックといったものに、上げる人と上げない人では、全然極端に違う。上げた人の意見だけという訳にはいかないのも分かる。

市長

不思議と感じるのは、どこの会場でも声の大きい人の前では、意見は言わない傾向にある。

帰り際に、「磐田市は、子育て支援に手厚いというのは、私、理解してますので。」と話しかけてくる方もいる。みんなの前で言ってほしいいつも思う。現場に入るのは大事とつくづく感じた。「磐田市の子育て支援なんか。」と言っていた人たちは、今を何とかしてほしいと主張している。今後、子育て支援が終わり幼稚園に入る時期になれば、その切り口で、小学校に入る時期になればと、こういった思考回路がずっと続いていくのであろうと思った。

こうしたことを現場でさばいていくのは大変だと思うが、学校の先生方も生き抜く力を、さばく力を持ってもらいたいと思う。大体、何かトラブルがあって、僕らが出ていくときは、頭を下げざるを得ないとつくづく思った。

カメラが回っていると、そんなこといいじゃないかとは言いづらい。放映されなかったが、カメラが回っているときに、けんかもんかになったこともある。この一年でずいぶんたくましくなったと思う。

先日も竜洋なぎの木会館で、PTAの県の大会があったが、静岡県は、先生方を全面的に応援する県であってほしい。先生の中にもいろんな人いるが、それはそれで置いて、先生方を応援していくというPTAの役割があると思う。これに対して、先生方もその声や期待に応えようとして頑張る。これをお互いに、誹謗中傷いては、発展性がないと思う。

いつも言うように、こういうメンバーが揃っている時にしか、改革はできないと思う。

ただ、「これ、この場で言っちゃ割に合わんな。」とか、変な忖度が働く職員は少なくとも、磐田市役所の中にはいてほしくないなと思う。

※1：「S・P・E・A・K」プロジェクト

S=Student、P=Practical、E=English、A=Assessment、K=check